

# 1. 職業訓練とその指導

## (1) 青年～成人を対象とする

学校教育では、6～7才から20才前後を対象としますが、職業訓練では青年以上のいわば大人を対象とします。その場合、特に中高年では、キャリアの多様性から、各技能や学力にはそれなりの異質さを想定しておかなければなりません。各人にとって難しすぎる内容や易しすぎる内容は、いずれも無関心なものとなります。

学力にかなりの差異があり、しかも個別指導が困難である場合は、とりあえずかなり詳細な資料を受講者に配布し、実際の授業では基本的にはそれをテキストとして用いることとし適度に飛ばして進めるというのも一つの方法でしょう。

## (2) 技術的・操作的 content が多い

職業訓練では、そのカリキュラムの概要から、技術的・操作的 content が多いといえます。一般に、“技術”は、自然法則をうまく組合わせて高度の有機体を構成するしくみと解され、その関連から、自然法則や数学的諸原理の学習も重要とされます。「諸々の物理現象などをいかにわかりやすく説明するか」も技術指導上の大きな課題といえます。

## (3) 図表・モデル・シミュレーションを用いる

作業手順とか技術的産物のしくみを指導する場合は、図表を用いるなどわかりやすい説明が求められます。あるいは、実習で実物モデルが大きすぎたりコストがかかりすぎるといった場合は、小規模の物理モデルを用いたりします。さらには、橋の強度、耐震構造などで、実物での実験に危険を伴うなどの場合は、シミュレーションによってその特性を理解させたりもします。

内容が操作手順や物理現象である場合は、説明図を逐次変化させて提示すると理解しやすいことが多く、その表現方法には大いに工夫を要するところです。